

胃内視鏡検査 説明・同意書

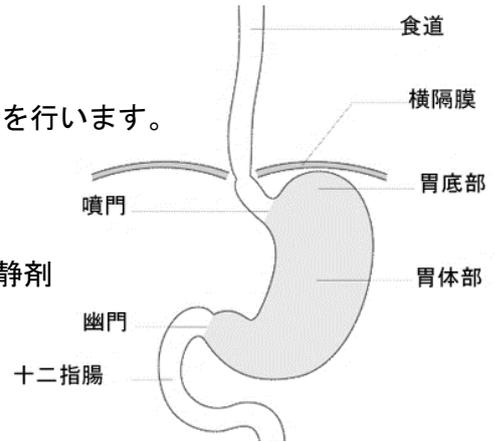
この検査は、食道・胃および十二指腸の一部を詳しく調べるために行う検査です。

1. 検査の内容

口または鼻腔から内視鏡を挿入し、診断を行います。

検査中病変が見つかったり、疑わしい場合は必要に応じて以下の事を行います。

- ・ 病変の一部をつまみ（生検）、組織をとって詳しく調べます。
- ・ 出血などがみられた場合には、止血処置を行います。
- ・ 検査中の苦痛を軽減するため、希望される場合は鎮痛剤や鎮静剤を使用することができます。



2. 偶発症について

- ・ 内視鏡による粘膜障害・裂傷・穿孔・出血、前処置の薬剤によるアレルギー
(全国調査によると、偶発症の頻度は0.005%、死亡件数は0.0002% (100万人に2人)と報告されています。)

3. 検査を受ける際の注意点

- ・ 当日は絶食となるため、糖尿病薬は飲まずに来院してください。
- ・ 経鼻内視鏡で鼻腔が通過しない場合は経口（口から）に変更して行います（当日鎮静へ変更不可）
- ・ 万が一緊急事態が生じた際は、当院で初期治療を行い、必要に応じて他院にご紹介します。

◆ 鎮静剤を使用する場合 ※経口で行います（鼻からの鎮静内視鏡は実施していません）

偶発症：呼吸抑制、血圧低下、眠気の遷延（時に半日以上）

注意点：車やバイク・自転車の運転は終日できません。（鎮静剤の効果は少なくとも5-6時間持続します）

※鎮静剤は体調・内服薬等の影響で十分な効果が得られないことがあります。

年齢・血圧・酸素等を考慮して安全を優先した使用量となる旨ご了承ください。

上記の事柄について十分理解しましたので、その実施に同意いたします。

年 月 日 氏名

【※鎮静剤を希望する方は、以下の項目にお答えください。】

体重	約 k g
来院方法	送迎・徒歩・タクシー・電車・自転車
普段の血圧が100mmHg以下である	いいえ・はい
※ 飲酒をする	いいえ・はい→（毎日・週 回・時々）（強い・弱い）
※ 安定剤や睡眠導入剤を飲んでいる	いいえ・はい→（毎日・週 回・時々）
前回の鎮静剤の効果	今回が初めて・良かった・効きすぎた・効きが弱かった

※に該当する場合、鎮静剤の効果が減弱する可能性があります。あらかじめご了承ください。